

社会教育だより



編集・発行:相双教育事務所長 佐藤 由弘

第2回地域家庭教育推進相双ブロック会議

1月27日(月)、環境創造センター環境放射線センターにおいて、鈴木庸裕日本福祉大学子ども発達学部教授(福島大学名誉教授)を座長に、地域教育に携わる31名をお招きして、第2回家庭教育推進相双ブロック会議を開催しました。

この事業は、「相双域内の社会教育関係者やPTA関係者等による家庭教育の推進や地域教育力の向上を図る」ことをねらいとしております。

今回は、以下の内容で会議が行われました。

1 事業報告

- (1) 「相双域内小・中学校のPTA活動」実践事例発表
 - ① 南相馬市立石神第二小学校PTA(代表による)
テーマ「知・徳・体のバランスのとれた子どもを育てための
学校・家庭・地域の連携の在り方」
 - ② 飯舘村立草野・飯樋・臼石小学校PTA、飯舘村立飯舘中学校PTA(代表による)
テーマ「校種を越えて地域と共にある親子の在り方・保護者及び教師の関わり方」
- (2) 「家庭教育応援企業」の状況及び取組の紹介
 - ① 相馬共同火力発電株式会社 ※「エネルギー環境講座」
 - ② 医療法人社団茶畑会 相馬中央病院
※「職場体験学習」「多世代交流」「夏休みキッズクラブ」「第46回相馬盆踊り大会
仮装団体初参加」
- (3) NPO法人はらまちクラブの取組紹介
※ 子ども対象事業、学校支援事業、通年事業、大人や地域対象の活動 等

2 協議

- (1) 「第1回地域家庭教育推進相双ブロック会議」の協議内容の報告
- (2) 各学校・団体・市町村等の今年度の取組(成果と課題を含む)
 - ① 「家庭教育3つの提言」(相双ブロック会議)に関する内容の取組
 - ② 「家庭教育3つの提言」(相双ブロック会議)に関する内容以外の取組

協議では、事業報告の内容やメディアに関する内容についてのご意見が多く出されました。「家庭教育3つの提言」や会議の詳細につきましては、[相双教育事務所ホームページ](http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70610a/)(<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70610a/>)をご覧ください。



相双教育事務所
ホームページ

地域学校協働活動事業推進フォーラム

1月28日(火)、郡山市のビッグパレットふくしまにて、「令和元年度地域学校協働活動推進フォーラム」が開催されました。

このフォーラムは、本県の今後の教育施策の方針をまとめた「頑張る学校応援プラン」の主要施策3「地域と共にある学校」の実現に向け、地域社会が一体となって教育に取り組むことの重要性について考えるためのものであり、毎年開催されています。今年は、300名以上もの方に参加していただきました。



フォーラム当日の日程

- 1 開会行事
- 2 実践発表
テーマ 「地域学校協働活動事業の実践について」
発表者 地域学校協働活動事業実践モデル市町村
- 3 基調講演
演題 「地域と共にある学校をつくる
～地域連携担当教職員の使命と、地域と学校の連携・協働の推進～」
講師 文部科学省大臣官房文教施設企画・防災部防災・減災企画官 広田 貢 氏
- 4 シンポジウム
テーマ 「地域と共にある学校」
- 5 総評
尚絅学院大学 教授 松田 道雄 氏
- 6 閉会行事

実践発表では、相双域内のモデル市町村である双葉町、川内村、檜葉町の担当者の皆様に発表をしていただきました。特色のある、具体的なお話をしていただきました。

また、岡山県教育委員会生涯学習課長や文部科学省所長中等教育局参事官補佐などを歴任し、地域と学校の連携・協働について造詣の深い、広田貢氏に基調講演をしていただきました。以下に、講演の概要をご紹介します。

- 子供たちが生きる未来は困難な時代
- 困難に立ち向かい、乗り越える力が必要
- 日本の生徒は自己肯定感、社会参画意識が低い
- 子供達の頑張りとおもしろさを発揮させる条件とは、自分への信頼（保護者への信頼）や地域・先生・友達などによる包まれ感（被受容感）
→社会に開かれた教育課程の実現
- 地域と学校が活動の軸に「子供」を据え、共通の目標・ビジョンに向かい、おかげ様、お互い様の関係を作ることが大切
- 学校と地域の連携・協働が持続可能な仕組み
→コミュニティ・スクール
- 子供たちを乗せて、未来に向かって走る自転車の前輪が学校運営協議会、後輪が地域学校協働活動
- スイミーの一節「ぼくが、目になろう。」の当事者意識



相双教育事務所のホームページでは、相双域内の教育関連情報、研修会の案内や様子、各様式等を紹介しています。まずは一度ご覧にください！

相双教育事務所

